

宝塚市「行財政改革」について

今年9月、エフエム宝塚は、開局25周年を迎えました。この間、宝塚市を始め、多くの市民、リスナー、スポンサーのみなさんからの支えがあり、この20年間連続して黒字経営を達成することができました。

番組制作では、今年度「白米担当大臣 茶木詩音」で、JCBA放送賞を獲得することができました。これまで累計36本受賞して近畿地区のトップを維持しており、その制作能力の高さを誇っています。また、市政60周年に実施した「宝塚1万人のラインダンス」や「防災ラジオウォーク」などのイベント展開により、宝塚市の活性化に寄与できたのではと自負しています。

さて、令和4年度から始まった宝塚市の「財政再建」計画で、継続事業の全面見直しの一環として「エフエム宝塚」の必要性について検討されています。

エフエム宝塚は、当事者として論議に参加して意見を表明させていただきました。これまでの支援に感謝するとともに、宝塚市の財政再建に協力する、具体的に一定の削減に応じる旨、すでに表明しています。

これに対して、宝塚市から費用対効果を踏まえて、放送業務委託料を令和10年までに半減するという具体案が提出されました（令和7年10月21日提案）。金額にすると2,800万円の減額となります。正直に言って、番組制作費を超える削減案に驚愕しています。もちろん、新規スポンサーの獲得、Web配信の強化、近隣局との連携など、考えられるあらゆる方策を模索いたしますが、結果として赤字計上となり、債務超過に陥り、最悪の場合は「廃局」につながる恐れがあることを危惧いたします。

これまでの協議の中では、実施期間、金額や他の業務委託など、ラジオ局として存続可能な方策を提案していますが、何とか「市民のラジオ局」として残る方策を模索したいと考えています。先日の「市民との対話集会」でも、防災対策としてFM宝塚は必要であり、さらにはラジオを聴いている多くの市民がいることを忘れないで欲しいという声がありました。今こそあるべきコミュニティラジオの姿を求めたいと思います！